

オバマ米大統領の広島訪問が決まった。ノンフィクション作家の野村路子さん（埼玉県川越市）は今年三月、広島の被爆者らとともにナチス・ドイツのユダヤ人強制収容所跡を巡る旅をした。アウシュビッツとヒロシマ。歴史に刻まれた惨事の記憶に私たちはどう向き合ふべきなのか。野村さんに寄稿してもらった。

三月、十六人の仲間とポーランドのアウシュビッツとチェコのテレジン、二つの収容所を訪ねる旅をした。数少ないホロコーストの生き残りを訪ねる仕事をはじめて四分の一世紀、脚が震え、ペンも持てなかった最初の訪問からすでに十五回余、アウシュビッツに残された髪の毛の山にも、一日に千人も殺したというガス室にも動揺しなくなっている自分を嫌だと思ってしまうたらいけない…そう思うためにも、人を案内するのはいい。はじめて行く仲間には「冬がいい」と言い続けてきた。近年は（こ）も暖かくなっているら

埼玉・川越のノンフィクション作家 野村路子さんが寄稿

# アウシュビッツとヒロシマ

しいが、七十一年前、解放の日  
はマイナス二七度だったとい  
う。その寒さを味わってほしい  
のだ。

旅立つ前に駐日ポーランド大  
使と面談した。「あそこで起こ  
ったことは想像を絶するだろ  
う」と彼は言った。「だが、事  
実あったことなのだ、それを知  
ってほしい」と。確かに、一つ

の国が、一民族を絶滅させる政  
策を実行に移したと聞けば、考  
えられないと言つ人が多い。だ  
けど、本当にそうなのか…旅の  
間、何度もそんな会話をした。

戦争のさなかには、どの国もが  
同じようなことを考えていたの  
ではなかったか。それが、戦争  
の恐ろしさではないのか…。

今回の仲間にはヒロシマの被  
爆者がいた。彼女は、二度と同  
じ悲劇を見たくないという願い  
から、世界各国を回って体験を  
語って来た人だ。広島もアウシ  
ュビッツ解放も七十一年前のこ  
とだ。ポーランド大使が「すべ  
て記憶は風化しつつある」と言

った時に、彼女は「自分たちの  
中では記憶は薄らいではないな  
い。風化させているのは当事者  
以外の人たちです」と言った。

旅の間に何度もそれを実感し  
た。チェコにいたユダヤ人犠牲  
者の名前を壁に記したシナゴー  
グでは、その名前を見ながら泣  
いている人がいた。祈っている  
人がいた。肉親を失った人たち

しかつたのよ、でも…」と彼女  
は言った。その後もアメリカの  
核軍縮は進んでいない。中国  
は、北朝鮮は…。

に記憶の風化はないのだ。  
うれしいことに、アウシュビ  
ッツでは若者の姿を多く見た。  
ドイツやポーランドの高校生  
は、必ず訪れ、その事実を見、  
聞き、戦争の愚かさを学ぶのだ  
という。そして、時には、訪れ

て来る、ここで苦しい生活を強  
いられ、幸いにも生き残った人  
々に会い、話をするのだとい  
う。国の政策で、教育の中で、  
それが継続されているのだ。

オバマ大統領が演説をしたの  
は、川の向かい側、プラハ城の  
前の広場だった。そこへ向かう  
途中、あの円い屋根が見えた  
時、彼はヒロシマを思っただろ  
うか。



原爆ドームにそっくりなプラハ  
のチェコ通産省庁舎。ヤン・レ  
ツルと同じチェコ人による設計  
だ（プラハで（野村さん提供）

のむら・みちこ ノンフィク  
ション作家。1937年生ま  
れ。91年より日本で「テレジン  
収容所の若い画家たち展」を開  
催。著書に「テレジンの小さな  
画家たち」など。昨年、現地で  
行われたアウシュビッツ解放70  
周年式典に日本人としてただ一  
人招待された。

プラハでは、オバマ大統領の  
ことが話題になった。七年前、  
この地で彼は「核のない世界」  
を訴えたのだ。「あの時はつれ

今、サミットで来日するオバ  
マ大統領はヒロシマを訪れると  
報じられている。アウシュビツ  
ツもヒロシマも過去のことでは  
ない。今も同じことが起こりう  
ると告げているはずなのだ。私  
たちがアウシュビッツで見聞  
いて、語りつづけていること  
とを、彼にも、日本で見、聞い  
て、故国で語ってほしいと思つ